

# 平成23年新年のご挨拶



(社)全国土木施工管理技士会連合会会長 小林 康昭

新年明けましておめでとうございます。常日頃、土木施工管理技士会の会員の皆様から賜る私ども連合会の活動に対するご協力とご理解に関しまして、心からお礼を申し上げます。

公共事業の削減に見られるように、建設分野では非常に厳しく深刻な状況が続いておりますことは、ご高承の通りであります。その一方、公共事業に対する社会からの要請や品質確保法の施行に伺えるように、建設産業を取り巻く経営的環境や土木施工管理技士を取り巻く技術的環境も、大きく変化いたしております。その結果、現場における技術者のあり方にも、余儀なき変化を迫られております。

連合会は、3年に一度、傘下の技士の方々に対してアンケートを実施しており、現場で働く技士会会員や現場技術者の声を把握するように努めて参りました。そして、この結果を、各方面の機関や団体、殊に発注者にお伝えする機会として意見交換会の開催を重要視して参りました。寄せられたご意見は様々ではありますが、いつもながら提出書類が過度に多量かつ煩雑であること、設計変更のプロセスが不透明で不合理に感じられることが多いなど、窮状を吐露する率直かつ深刻な声を認めることが出来ます。建設事業は発注者と受注者のより良きパートナーシップが成功の鍵でありますから、アンケートに答えて頂いた技術者の方々の声を活かして、より好ましい環境を整えていきたいと考えております。

連合会は、技術者が研鑽に勤しみ、その技術力を適切に評価できる指標とするために、継続学習制度（CPDS）の普及に力を注いで参りました。その甲斐があって、今では、各地方整備局初め多くの諸機関で、CPDSを技術評価項目として採用する気運にあります。その結果を反映して、平成22年10月時点でCPDS加入者は約12万人に増加し、技士会の会員も、地域的には多少の増減が散見されますが、全体的には平成22年度で9万3千人に増加しております。

監理技術者講習に関しては、今後も普及と充実に力を入れていく所存でおります。監理技術者講習の開催に至っていない技士会は、是非ともご検討をお願いいたします。

土木施工管理技士は、国土建設、社会基盤整備の第一線にあって、その主役を演じる存在であります。公共事業に対する逆風が世を席卷する折から、是非とも長期的な展望に立って、今後一層、活動を充実させて、会員の技士の皆様一人一人が「入会して良かった、と思える技士会」を実現できるように、努力を重ねて参りたいと念じている次第であります。今後とも、土木施工管理技士会連合会に対しまして、会員の皆様方のご支援、ご協力を、切にお願い申し上げます。最後になりましたが、本年が皆様にとりまして、より良く幸せな年になりますことを、衷心からお祈りいたしまして、年頭のご挨拶と致します。